オープン・リーグにおける競争均衡度合に関する研究

スポーツビジネス研究領域
5008A021-7　川名　光太郎　　研究指導教員：平田竹男 教授

【Ⅰ．序論】

リーグ内の競争均衡度合（コンペティティブ・バランス）を対象とした研究は、Rottenberg(1956)の研究を皮切りに、欧米において多数行われている。チームスポーツのプロリーグは、昇降格制度を有し、選手の労働市場に対する規制を行わない自由競争のリーグシステムであるオープン・リーグと、リーグ参入障壁を設けているクローズド・リーグという、大きく分けて 2 つの形態が存在する。先行研究では、El-Hodiri and Quirk(1971)や Szymanski and Kesenne(2004)など、クローズド・リーグ特有の、レベニュー・シェアリングやドラフト制度などの戦力均衡施策がリーグ内競争に及ぼす影響に着目した研究が多く存在している。しかしながら欧州サッカーを代表とするオープン・リーグにおける競争均衡度合に着目した研究はまだ少なく、わが国においても行われていない。オープン・リーグはレベニュー・シェアリングなどの施策が行われないため、リーグ内での人件費の格差が生まれる可能性がある。以上の背景をもとに、本研究では、我が国において昇降格制度を有する代表的なリーグである、J リーグ（日本プロサッカーリーグ）に着目する。J リーグは、開幕当初は 10 チームによる完全クローズド・リーグであったが、徐々にチーム数を増加させていき、1999 年には J リーグ・ディビジョン２（以下Ｊ２）を作りオープン・リーグへと移行している。

クローズド・リーグからオープン・リーグへと移行した J リーグにおいて競争均衡度合がどのように変化したのかを明らかにすることで、リーグ形式の変化（新規参入の有無）が競争均衡度合変化に与える影響を検証し、またリーグ内における人件費の均衡度合との間にどのような関連性があるのかを明らかにすることを、本研究の目的とする。

【Ⅱ．研究手法】

J リーグと比較するために、同じく昇降格制度を有するイングランド・プレミアリーグにおいても同様の分析を行い、J リーグの結果と比較していく。プレミアリーグは１９９２年にそれまでのフットボールリーグから独立する形で発足しており、テレビ放映権やスポンサーなどの契約を独立して結ぶなど、リーグ内の収入構造変化が起こったリーグである。このような構造変化が競争均衡度合にいかなる影響を与えたのかを分析するために、J リーグとの比較対象とした。

・競争均衡度合測定方法：ドイツ・ブンデスリーガのコンペティティブ・バランスを測定した Brandes and Franck（2006）の手法を参考とし、

１．上位５クラブの勝ち点支配率（式 1）
２．勝ち点のハーフィンダール指数（式 2）
３．ローレンツ曲線　を用いる

$$C5_t = \sum_{i=1}^{5} s_{it},$$

式 1：上位５クラブの勝ち点支配率(C5)

$$H_t = \sum_{i=1}^{N} s_{it}^2,$$

式 2:勝ち点のハーフィンダール指数 (HI)

Ｓi は順位「i 位」クラブの占める勝ち点の割合であり、N はリーグ内のクラブ数である。なお、上記式はリーグ内のクラブ数変化によって数値が大きく変動するため式３、式４を適用することでチーム数の増減に結果が左右されないようにする。

$$\text{C5 index} = \frac{\text{C5} * 100}{5/N}$$

式 3：C5 index of competitive balance

$$HICB = \left(\frac{HI}{1/n}\right) \times 100$$

式 4：The Harfindahl index of competitive balance

また、上記式に加え、過去 10 年間で勝ち点の格差がどの程度広がったのかを分析するために、ローレンツ曲線を用いて分析を行う。次に、J1、プレミアリーグにおいて人件費の均衡度合にどの程度差が存在するのかを明らかにするために、単年度（2007 年）における人件費の C5 index ならび HICB を測定する。

【Ⅲ．研究結果と考察】

Ｊ リーグ（Ｊ１）とプレミアリーグにおける成績の均衡度合推移を測定した結果、J リーグに関しては、1995 年から 1998 年にかけてハーフィンダール指数、上位 5 クラブの支配率が共に上昇しており、競争均衡度合が低下している事が明らかになった。しかしながら、1999 年を境に両変数とも低下傾向を示しており、2008 年度は測定期間中最も低い数値を示している。以上の結果から、J リーグにおいては、J2 を創設し昇降格制度を取り入れた以降は、成績の均衡度合が上昇していること、この傾向は最新である 2008 年シーズンまで続いており、昇降格制度の導入が競争均衡度合を改善することを示唆していると考えられる。

次にプレミアリーグを分析した結果を見てみると、プレミアリーグ発足前の 3 年間はハーフィンダール指数、上位 5 クラブの支配率共に低い数値を示しているが、プレミアリーグ発足以降徐々に上昇傾向を示し、特に 2004 年以降は高い数値を示している。以上の結果から、プレミアリーグにおいては、近年成績の均衡度合が低下し、上位 5 クラブによる支配率が高まっていることがわかる。これらの結果は、ローレンツ曲線を使用した分析でも同様の傾向が読み取れる。人件費の均衡度合測定結果からは、Ｊ１とプレミアリーグとの間には大きな開きがあり、この人件費の均衡度合の差が、成績の均衡度合の差に現れているのではないかと考えることが出来る。

本研究によって、昇降格制度の導入により、レベニュー・シェアリングやドラフト制度などの戦力均衡施策等が存在しなくても、競争均衡度合が高まるという示唆を得た。